

人間科学部社会学科 3年 N.F  
『思考の整理学』 外山滋比古 著

生田分館：X/080/C44/Toy701544488



皆さんは普段「考える」ということについて考えることはありますか？

「人間は考える葦である」という言葉もあるように、我々は「考える」ことが出来るという武器を持っています。「考える」ことは生きるために必要不可欠な行為であるとも言えるでしょう。しかしその武器を最大限活かすためにはどうしたらいいのか、ということについては考えたことがないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私もその一人でした。そんな私がある時、“東大・京大で1番読まれた本”というフレーズに魅かれて手に取ったこの本。この有名なフレーズを聞いたことがある方もいらっしゃると思います。刊行から35年経った今でも、多くの人に読まれているロングセラーです。友達と話している時、読書をしている時、授業を受けている時、レポートを書いている時、皆さんは様々な場面で考えているはず。そんな時どうすれば「考える」という武器を最大限生かすことができるのか、延いてはどうすれば生きることを楽しむことができるのか、この本にはそのヒントがたくさん詰まっています。

「思考の整理とは、いかにうまく忘れるか、である」この言葉もそのヒントのひとつです。一見すると、ん？と思うような言葉ですが、この本を読めばその意味が分かります。0から1を生み出すのが苦手、文章を書く時どこから手をつけていいかわからない、よく頭の中がごちゃごちゃしてしまう、そんな悩みを抱えている人に読んで欲しい一冊です。